

疎水を活かした農村コミュニティの強化と観光の推進

むらやま さと はぐく かい ほくとし
村山の郷・育む会（山梨県北杜市）

中間農業地域

- 村山の郷育む会は、八ヶ岳、南アルプス山脈、奥秩父山塊といった山々に囲まれ、南には富士山も望める山梨県北杜市のほぼ中央にある高根町に位置し、疎水百選に選定された「村山六ヶ村堰疎水」を中核とした様々な活動を取組んでいる。
- 小学校等と連携したイベントを開催して、村山六ヶ村堰疎水の歴史や役割について学ぶとともに、疎水によって育まれる食材を活用した試食会などを行い、地域間と三世代の交流を図っている。
- 本取組によって、地域内のコミュニティが強化され、地域資源保全活動に取り組む意識も向上するとともに、農村資源を活用した観光にも取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積344ha
(田228ha、畑116ha)
- ・資源量 開水路12.1km、
農道3.4km
- ・主な構成員 自治会、婦人会等
- ・交付金 約26百万円(H27)
(農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化))

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、旧六ヶ村の17集落により構成されているが、共同活動に参加する若い世代の減少等により、集落単位でのコミュニティ機能が低下。
- 疎水百選に選定された村山六ヶ村堰疎水やその周辺に生育している希少植物などの観光資源があるものの、それらの資源を保全するコミュニティ機能の低下が懸念され、郷を守り育て次世代につなぐという気運を高めることが課題。



村山六ヶ村堰疎水と希少植物(キキョウ)

取組内容

- 平成24年度から、組織体制の整備に取り組み、農村資源を地域で守っていくという意識を醸成。
- 集落間で連携し、小学校の総合学習の一環や親子3代の絆を深めるため、疎水の歴史や役割について学ぶウォーキングイベントを開催。
- 地域内の様々な組織と連携し、疎水によって育まれたトマトを活用した新たな食品の試食会の開催や希少植物を活用したフットパス※の整備など新たな観光資源の開発に取り組む。



交流会における試食会の様子

※田園地帯など地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径(こみち)のこと

取組の効果

- 地域内の子ども世代に対し、疎水の歴史や役割を教えることにより、子どもだけではなく、親世代に対しても、その保全に係る理解を増進。
 - ・H27年度ウォーキングイベント参加者数：131人(3小学校4年生)
 - ・H27年度農地維持活動の参加率：9割超
- 村山六ヶ村堰疎水や地元食材など地域の魅力を発信。知名度向上を図ることにより、多くの集客による地域の活性化。
 - ・イベント広報活動：広報誌 3回、TV取材 3回
 - ・地域間交流イベントにおける地域外からの参加者：約3割



小学校と連携したイベントの様子

環境保全活動の推進

平地農業地域

やまなししかんきょうほぜんかつどういんかい (やまなしけん やまなし)
山梨地域環境保全活動委員会 (山梨県山梨市)

- 本地域はオオムラサキや珍蝶等が生息できる恵まれた自然環境を持つ反面、水路への不法投棄などで水質の悪化により生態系に影響を及ぼしている問題も抱えている。
- 地域住民や次世代を担う子供に環境保全意識の高揚につなげる事を目的とし平成24年度から道路・水路クリーンアップ5ヶ年計画を策定し、水質向上啓蒙する立看板の作成、水路清掃等を行うと併に魚の放流や生息しているオオムラサキの保護活動を行う。
- これらの活動により地域住民の環境保全意識の向上が図られる。

【地区概要】

- ・取組面積86ha (畑86ha)
 - ・資源量 開水路7.0km
農道1.7km
 - ・主な構成員 事務局、自治会、育成会、水利組合、公民館、JA役員等
 - ・交付金 約3百万円(H27)
- (農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化))

活動開始前の状況や課題

- 水路へゴミ等の不法投棄や農薬の流入により、水質が悪化し生態系など周辺環境にも影響を及ぼしている。
- 地域の持つオオムラサキ等の珍蝶が生息できる恵まれた自然環境の保護方法について検討。
- 地域が持つ自然環境のアピールと共に環境保全意識の向上・定着を目的に事業を取り組む。

【不法投棄等により水質悪化している】



【オオムラサキが生息できる自然環境】



取組内容

- 水路清掃、立看板の作成。
- 農家取組は農薬散布は広報紙等を利用して農薬流出防止を呼びかける。また果樹袋も飛散しないように工夫し、風により水路に入らないよう水質の保全に努める。
- 鯉の放流、オオムラサキの生体調査パトロール、榎木伐採防止依頼保護活動の実施。

【子供達と一緒に鯉の放流】



【自然環境パトロー風景】



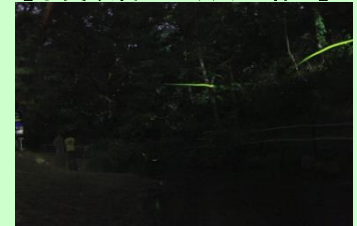
【啓蒙看板の作成風景】



取組の効果

- 本事業の取組により、農家を含めた地域住民の環境保全意識の向上。
- 事業取組回数
H26 30回 → H27 40回
- 不法投棄物の減少
H26トラック2台分 → H27トラック1台分
- 水質向上に伴い蛍の発生が年々増加に至る。

【水質改善により蛍が増加】



【啓蒙看板の設置】



【農家による果実袋の飛散防止】



農村景観を活かした地域活性化

山間農業地域

ひらばやし
平林地域環境保全活動委員会（山梨県南巨摩郡富士川町）

- 山梨県南西部に位置し、集落内に棚田が広がる山間農業地域。集落が有する棚田と富士山が織りなす風景は、地域の誇れる資源であり観光スポットにもなっている。
- しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足が進んだことにより、耕作放棄地の増加が課題となっていた。
- このため、地域住民が組織する活性化組合が中心となり、耕作放棄地を活用した棚田オーナー制度や農業体験、朝市などを活用した地域の活性化に取り組んでいる。
- この取り組みの基盤となる棚田、農業用水路の保全には、多面的機能支払を活用しており、地域の環境保全に対する意識も更に向上している。

【地区概要】

- ・取組面積 17ha（田10ha、畑7ha）
- ・資源量 開水路5.7km
農道 2.8km
ため池1箇所
- ・主な構成員 自治会、農業者、
平林活性化組合、
子供会、婦人会
- ・交付金 約0.5百万円（H27）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 少子高齢化が顕著であり、地区の産業も衰退するなど地域の活力が低下。
- また、農業従事者の高齢化や後継者不足が進んだことにより、耕作放棄地が増加。
- 地域の営農者の生産意欲が低下すると共に、地域の活力も減少。

【地域の資源である棚田と富士山の風景】



取組内容

- 富士山と棚田の美しい景観と、農業体験、朝市や地域食材を使った料理の提供をセットにした、都市との交流を推進。
- H19からは多面的機能支払を活用し、地区の財産である農村景観保全に取り組む。



【共同活動
景観作物の栽培】

【保全される棚田
と富士山の風景】



取組の効果

【農地の保全状況】

- ・高齢化により耕作できなくなったほ場など地域で管理する農地面積
H20年度：0.79ha ⇒ H26年度:1.11ha

【体験農業活動実績】

- ・体験者数
H20年度：1,364人 ⇒ H26年度:1,676人

【平林体験農園休憩交流施設利用実績】

- ・体験者数
H20年度：5,137人 ⇒ H26年度:5,353人

【棚田オーナー制度による 田植え風景】



環境保全活動の推進

山間農業地域(田畑型)

とみおか

うえのはら

富岡の環境を守る会(山梨県上野原市)

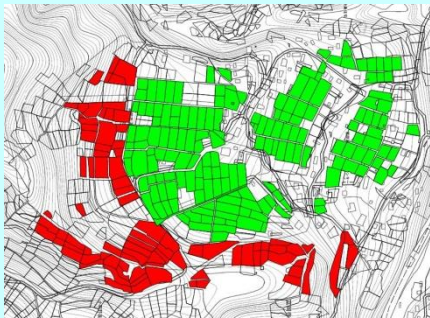
- 本地域は山村の棚田で形成される水田地帯である。水資源に恵まれ良質な米を生産している。しかしながら生産基盤整備の遅れや野生獣の被害等から遊休農地が目立ちはじめ深刻な状態だった。
- 生産基盤の整備による課題克服、平成25年度から本活動への取組みとし遊休農地の解消及び学校教育と連携し環境保全の啓発活動とし田んぼの生きもの調査を実施。
- これらの活動により地域住民の環境保全意識の向上が図られた。

【地区概要】

- ・ 取組面積 6.3ha (田5.8ha、畑0.5ha)
- ・ 資源量 開水路2.4km、農道1.3km
- ・ 主な構成員 農家、水利組合事務局
- ・ 交付金 約0.5百万円(H27)
農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 水路等老朽化が著しく、漏水等から排水障害により作付けが出来ないことから遊休農地が発生。
- 山林からの野生獣の被害により、農業意欲が減退し遊休農地が発生し雑草が繁茂し病害虫が発生するなど周辺農地まで遊休地化が拡大。
- 獣害対策を含む、生産基盤の改善を検討し、農業農村基盤整備の実施へ着手。



協定農用地
遊休地を再生した農地

取組内容

- H23年度～鳥獣害柵の整備や野面石を利用した、景観・生態系保全等の環境へ配慮した生産基盤整備の実施。
- H25年度本活動の開始 農村環境保全活動とし田んぼの生きもの調査を実施。地域の小学生と保護者、水利組合など非農家を含めた環境学習を実施。
- 遊休農地の有効活用とし、農地へ再生し果樹等の地域資源となる植栽を行う。

【生きもの調査風景】

【生物観察の様子】



取組の効果

- 農村環境保全活動とし生きもの調査を実施し地域住民の環境保全意識の向上。
・ 参加者数 (H25年度) 21人
(H26年度) 29人
- 生産基盤整備を契機に、遊休農地3.2haの解消を行ない、果樹等苗木195本を植え、地域振興の資源とすることで地域の活性化が図られる。
- 地域の農地・環境保全に対する住民意識の向上。

【保管理された棚田】

【果樹林植栽の状況】

